

東京大学ヒューマニティーズセンター 第5回オープンセミナー

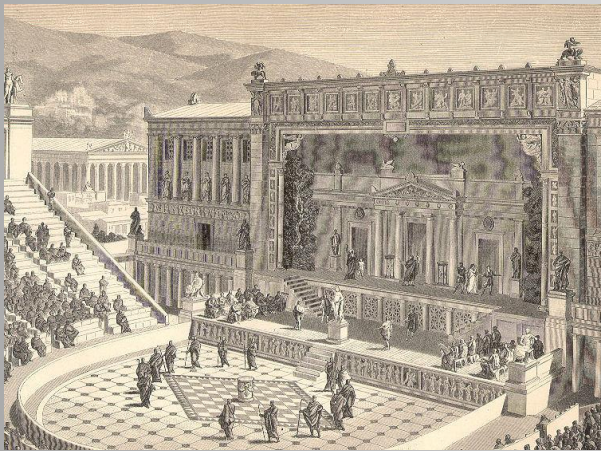
日本の古典文学と古代ギリシア文学の比較 — 詩歌と社会の視点から — ギリシア悲劇と能

- ▶ 2018年12月14日（金）17:00 - 19:00
- ▶ 東京大学 東洋文化研究所 3階 第1会議室

入場無料 | 事前登録不要

報告者：葛西康德（人文社会系研究科・教授）
末吉未来（人文社会系研究科博士課程）

ディスカッサント：
菅原克也（附属図書館副館長，総合文化研究科・教授）



ローマ時代のデュオニューソス劇場(想像図)



厳島神社の能舞台

【概要】

報告者は、大学院人文社会系多分野交流演習『東京大学草創期の授業再現』（2014-2018）を担当する中で文化転移（Cultural Transfer）について考察してきた。その過程で明らかになったのは、学術の伝播を単一のRecipientの立場から見たDonorからの継受（Reception）として論じるのではなく、Donorの視点から複数のRecipientに対する普及（Diffusion）として捉えるべきことである。

さて一般的に言って、日本は西洋の学問を継受（Reception）してきた。では、日本が西洋に対してDonorになった例はないだろうか。本セミナーは、John Gould（1927-2001）のギリシャ悲劇研究から出発してフェノロサとノエル・ペリの能研究に遡る。一方で久保正彰（西洋古典学研究室・名誉教授）と東京大学ギリシア悲劇研究会（「ギリ研」）の事跡をたどり、文化転移を重層的に論じたい。特に「ギリ研」の活動については、共同して研究を行っている末吉未来氏から報告する。

問合先：東京大学ヒューマニティーズセンター事務局
Tel: 03-5841-2654
E-mail: humanitiescenter.utokyo@gmail.com
URL: <http://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center